

フラーレン分子超薄膜の二次元水圏電子・イオン材料としての応用



原野 幸治

東京大学・特任准教授

その内部に二次元水分子ネットワークを構築し、その材料としてのポテンシャルを探ります。具体的には、各種分析手段を駆使してナノレベルでの水ネットワークの構造を解明し、高速イオン輸送などの物性開拓を目指します。

構造化された水分子のネットワークは、バルクの水や氷とは異なる電荷、イオン、物質輸送特性や相転移挙動などの特異な基礎物性に興味がもたれています。本研究では、我々が独自開発した自己集合型水圏機能材料である両親媒性フラーレン分子超薄膜を用いて、その内部に二次元水分子ネットワークを構築し、その材料として

